

カ工場主ハ外資先ヨリ帰米セザル為ノ一旦  
 第議本部ニ引上ケテ彼ナ一時一日散会  
 セリ而シテ解雇手當支給額ニ関シ工場  
 主ハ従前ノ規定ニ依ラハトシ組合(職工)  
 側ハ今回ノ要求額(即ケ従前ノ倍額)ニ  
 依ラシムトスルモノレテテ兩者ノ主張ハ  
 一致セザルモノニ付之レカ支拂ニ際シテハ  
 尚一破爛アルヘク思料セララル  
 追而本十五日附大阪毎日新聞ニハ職工側夜の威嚇  
 運動警火を焚イテテ當支給を迫ルト題スル  
 記事ニ関シテハ前記ノ如ク職工カ會社ニ到リ  
 併合セル際會社前地ニ於テ煖ヲ取ルヘク  
 焚火ヲ為セル事莫アリタレハ所轄泉尾警察  
 署ニ於テ注意ノ上直ニ消カシメタルモノニテ之  
 ヲ該新聞紙ニ誇大ニ掲載セルモノニ有之由念  
 前記組合以外ノ職工(自々々々)ハ毎日出勤平常  
 ト變リナク従業シ居レリ  
 右及甲(通)一報候也

大正十一年二月十六日  
 大阪府知事 池松時 和

内務大臣 木次竹二郎殿  
 農商務省 五務局長殿  
 警視總監 岡喜七郎殿  
 京都兵庫各府縣知事殿  
 大阪地方裁判所檢事正殿

小野鐵五造船所ニ於ケル勞働  
 争議ニ関スル件

(第五報)

被解雇職工六十五名ハ十四日夜解雇手當  
 受領ノ為メ工場ニ於テ待合セ居タリ又  
 工場主力外出ニテ帰宅セサル者アリ  
 揚子タルニハ既報ノ慶立憲勞働党

11-2-14  
 703